

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年5月1日】第48号



子どもたちを守るために

新型コロナウイルス感染症対策として「一斉臨時休業」が続いており、本校でも5月6日(水)の「緊急事態宣言」解除の有無にかかわらず、学校の再開(登校及び授業の開始)を5月25日(月)以降としました。このことにより、子どもたちの新年度のスタートはさらに遅れることとなります。

本校では Zoom による学級会、ワークや動画の配信などを定期的に続けていきますが、引き続きご家庭でも子どもたちの学習にご協力をお願いします。子どもたちや保護者の皆様だけではありません。教職員も皆、学校が再開され、子どもたちが東京農業大学稲花小学校に元気で集まってくる日を楽しみにしています。

そのためにも、子どもたちの命を守ることを第一に、大人である私たちには忍耐強さと冷静な行動とが求められています。後悔することがないよう、子どもたちに恥じることはないように、過ごしたいと思います。

子どもたちと過ごす時間

毎日、子どもたちが在宅していることは、保護者の皆様の生活にも大きな変化をもたらしたのではないのでしょうか。日々の家庭学習や食事作り、そして子どもたちの有り余るエネルギーと向き合う毎日は、わが子のこととはいえ、そして、長くなればなるほど容易ではないことと思われます。一方、子どもたちにとっては、大好きな家族とゆっくりすごせるうれしい機会でもあります。また、何かと忙しい学校のある日々とは異なり、興味・関心のあることにじっくり取り組む時間があるといえます。子どもたちのもつ興味・関心を引き出し、受け止め、伸ばしていく手助けをしていただきますようお願いいたします。もしかすると、子どもの将来の夢をかなえるスタートの一つになるかもしれません。

大人も学び考える

思いがけなくできた時間。これは子どもたちだけでなく、大人にとっても同じです。古代文字を解読しようとか、未解決の数学問題にチャレンジ…などという高いハードルでな

くても、日頃できないことに取り組むのはいかがでしょうか。

実は3月末に、校務としてプログラミングの合宿研修に参加する機会がありました。これからの本校でのプログラミング教育を考えるため、という目的があつての参加でした。日ごろの業務から離れ、新しいプログラミングの習得に集中して取り組むのは、楽しい頭の体操でした。また、その経験は今、インターネットを介した教育を構築する際にも思いがけず役立っています。

本校の教員もまた、思いがけずインターネットを介した教育について考えたり、あるいは新しい手法を学んだりすることになりました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、教育に携わる誰もが、また、教育を受ける子どもをもつ保護者の誰もが新しい視点で教育を考え、社会を考えることになりました。子どもたちに学ばせるだけでなく、大人も改めて”学び“について考えるようになったといえます。

私たちは今、経験したことのないことばかりの難しい日々を生きています。しかし将来、この2020年を、できる限りの正確な情報を得て学び、よく考え、誠実に行動した年だったと振り返ることができるよう願っています。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子